

植物精油アロマ消臭剤 『エフグラスシリーズ』

天然精油で空間の消臭と香りの演出を

トイレのアンモニア臭、トイレ使用後の臭気、更衣室やエレベーターでも…フレグランスで中和消臭

ウッディ

森の中にあるようなヒノキの香り
フイтонチッドの消臭効果も



メントール

清涼感と涼しさを基調とした
清潔感のある爽やかな香り



リラックス

ラベンダーをベースに
ゆったりリラックスできる香り



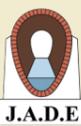
ビタミン

柑橘系をイメージした
元気が出る香り



日本水循環文化研究協会

特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは…
本コラムでも取り上げられている尿尿に関する文化
や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及
継承を目指して活動しています。2022年日本下水
文化研究会から改組しました。



13回 リレーコラム

今回もおなじみ、総合トイレ学研究者の森田英樹さんにお話を伺いました。

“わかっちゃいるけど、やめられねえ！” はなし

和式便器から洋式便器への移行が進
展した昭和の時代、トイレには洋式便器の
使い方の説明図が貼られていました。

その頃、文藝春秋社の雑誌「オール讀
物」に「快食快眠快便」という連載コラムが
ありました。普段、話題にすることがない排
泄に関して、有名人が代わる代わる赤
裸々にその思いを語っていました。それら
は後に文庫本にもなりました。その中に、
作家の畑正憲氏の「定期便」という次のよ
うなコラムがあります。

「ことに私の場合、かなりの脱肛だか
ら、便の通る道が狭くなって便が丸く
なって出はこない。押しつぶされた形
で、ひょろ長くなっている。それで困るの
が、洋式の便器である。坐ると尻が両方
から圧迫され、いきめども便が出てこ
ない。そこで便器の上に乗って事をなそうと

すると、打点が高くなり、ポチャンという音
と共に水がはねる。これにはほとほと困
り、ホテルなどに泊まる時には、その公害
除去の工夫研究から1日が始まったりす
る。(1973年11月号)」

また、映画監督の岡本喜八氏は「快調」
という題で、「カミさんの発案でウチのハバ
カリは洋式だが、余程ヒマな時でもない限
りあれに腰を下ろす気はおこらない。いつ
用が足せるか判らないからである。だから
私は毎朝、あれのフチに上り登って我が国
古来の姿勢をとる。かの角力の仕切りの
如く、チカラのみなぎったスタイルがふさ
わしい。(1970年6月号)」と述べています。

私たちは、正しい使い方が分からないか
ら、トイレを汚してしまう。だから説明図が必
要だ!と考えていたわけです。しかし、正しい
使い方が分かっている、正しく使えない、

あるいは使わない場合もあるようです。

昭和歌謡の名曲「スーダラ節」で植木
等氏は「わかっちゃいるけど、やめられ
ねえ」と歌いました。今日、観光地のトイレで
は、外国人に向けて正しいトイレ使用を促
すべく各国語表記での説明文を目にしま
す。しかしもしかすると「わかっちゃいるけ
ど、やめられねえ」場合もあるのかもしま



出典：(一社)日本レストルーム工業会

編集後記

先日、広島RCCラジオ「まるっと日常ワイド えんまん。」に生出演いたしました。さまざま
な業界誌を取り上げ、その業界ならではの話を聞くというコーナーで、かわや版をご
紹介いただきました。トイレ診断士の活動や、年末に向けたトイレの大掃除についてお
話しました。緊張もありましたが温かく盛り上げていただき、私自身も普段触れること
のないラジオの世界の裏側を垣間見ることができました。(セルベッチオ中嶋)

infomation!

『御手洗銀三物語』が、アメニティネットワークのホームページで連載スタート!

株式会社アメニティの創業者・御手洗銀三(本名:山戸里志)がトイレ
ビジネスを始めてから、今年で50周年。

その節目を記念して、これまでの歩みを紐解く連載コラムが始まり
ました。ぜひご覧ください。



物語は
こちらから



特集

解消できるのか!?! 女性トイレの行列問題

仕事帰りに立ち寄った駅で、買い物の商業施設で、
休日の観光地で、女性トイレだけが長い列 —
そんな「女性トイレの行列問題」が
今話題になっています。
この男女の不均衡はなぜ生まれてしまうのか、
そして問題は解決できるのか、
掘り下げていきたいと思います。



それはひとりの「声」から

女性トイレの行列問題が「社会問
題」として注目されるようになったき
っかけは、一人の市民による地道な調
査でした。行政書士の百瀬まなみさん
は、2022年に岡山県倉敷駅で女性ト
イレに並んだ際、トイレ前の案内板を
見ると、大・小合わせた男性トイレの
便器数が女性より圧倒的に多いこと
に気づきました。「なぜ女性だけが待
たされるのか」という疑問から、全国
の公共トイレを独自に調べ始めたので
す。この調査は朝日新聞に取り上げら
れ、「706カ所調べてみたら…見えた
男女格差」と報じられました。その後
も百瀬さんは調査を続け、2025年
12月現在、鉄道駅や空港、商業施設
など1132カ所を訪れた結果、男性用

便器数は女性用の1.68倍、9割以上
の施設で男性便器の方が多く、女性
便器が多かったのはわずか77カ所し
かないということがわかりました。数字
で見える「不公平」は、日常の不便を
構造的な問題として浮き彫りにしまし
た。この問題はSNSでも話題となり、
「女性トイレだけ行列になるのはなぜ?」
という共感の声が広がります。さら
にテレビ番組でも紹介され、問題は
一気に社会的な注目を集めるようにな
りました。

女性トイレ行列の理由

女性トイレにだけ行列ができてしま
うのには、いくつかの背景があります。
女性は個室での服の脱ぎ着や子ども
の付き添いなどもあり、どうしても時間

がかかってしまいます。利用時間の差を
考慮できず女性トイレが不足する状況
が続いてきました。

駅やオフィスビルでは、建設ときに
想定された男女比と現在の利用状況
が大きく変わっていることも問題です。
かつては男性利用者が多いと見込ま
れていた施設でも、女性の社会進出や
就業率の上昇によって利用者構成が
変化し、女性トイレが足りなくなるとい
う現象が起きています。

加えて、トイレ環境の変化も影響し
ています。和式から洋式へと移行し、快
適な空間づくりが進んだことで、化粧
直しやスマートフォン利用など長居し
やすい要因が増えています。こうした複
数の要因が重なり合い、日常的に「女
性トイレだけが行列になる」という状況
が生まれているのです。

女性トイレだけに行列ができる理由

女性は約3倍時間がかかる
男性は平均約30-40秒、女性は約90秒前後(「トイレの研究」日本トイレ協会編)

設計時の男女比のズレ
建設当時の想定と現在の利用者構成が合わなくなっている

トイレ環境の変化
和式から洋式へ、臭いもなく快適で長居しやすくなった

行動の変化
個室内でスマートフォン利用や化粧直し、喫食などで滞在時間が延びる



1132カ所のトイレを調べた百瀬まなみさん

あなたの町のアメニティネットワーク
アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

政府にも動き

政府は今年の「骨太の方針2025」で女性トイレの利用環境改善を政策課題として位置づけました。これは社会構造の変化を踏まえた政策判断であり、百瀬まなみさんの調査や報道によって問題への関心が高まったことも、議論を後押しする背景となりました。

その具体的な動きとして、国土交通省は2025年11月に初となる有識者会議を開催しました。会議では、駅や商業施設、イベント会場などでのトイレ設置基準を見直す議論が始まりました。便器数の基準が利用実態に合っていないことが改めて指摘され、

女性は男性より利用時間が長く個室であるため行列が生じやすいことが数字でも示されました。日本トイレ協会の小林純子名誉会長はこうした国の姿勢を評価し、「10年後には『女性ばかり待っている』という状況をなくしたい」と未来への行列解消への期待を示しました。

行列解消の課題と解決の糸口

さらに、駅や高速道路のトイレの管理者、利用者や設計者などが集まった「トイレシンポジウム」では、それぞれの立場から女性トイレの行列解消についての意見交換が行われました。

商業施設ではトイレは利益を生まない空間であるため、場所の確保に難色を示されたり、地下鉄などでは構造上の制約があったりするため、すぐに数を増やすことが難しい現状も浮き彫りになりました。一方で、ICT技術を取り入れた新しい取り組みも紹介されました。トイレの空き状況を可視化するシステムや、長時間滞在する利用者には退出を促すアナウンスなど、利用者への働きかけを工夫することで混雑を緩和する試みです。こうした技術や工夫が広がれば、行列解消に向けて一歩前進するのではないのでしょうか。

トイレの日特集

11月10日は「トイレの日」、そして11月19日は「世界トイレの日」です。トイレは毎日使う場所だからこそ、ちょっとした工夫で気持ちが変わります。トイレの日に合わせて行われた大手コンビニチェーン・ローソンの「きれいに使ってほしい」という思いを込めたアートトイレの試みと、神奈川県横須賀市による安心してトイレを使える環境づくりの取り組みをご紹介します。

ローソンの「きれいに使いたくなるトイレプロジェクト」

コンビニエンスストアのローソンでは、今年度8店舗(累計20店舗)で「きれいに使いたくなるトイレ」をテーマにしたアートトイレを展開しました。デザインは一般公募によるコンテストで選ばれた8作品。鮮やかな壁画アートは利用者に楽しさを届けると同時に、1日複数回にわたるトイレ清掃などが店舗の負担になっている現状を軽減し、「きれいに使ってほしい」というメッセージを伝える工夫もあります。今年で4年目となるこの取り組みでは、すでに利用マナーの向上や清掃・メンテナンスの負担軽減といった効果も確認されています。日本で初めてコンビニのトイレを開放したローソンだからこそ、アートトイレを通じて「誰でも安心して使える持続可能なコンビニトイレ」という新しい価値づくりに挑戦し続けています。



芦別北4条東(北海道)



大仙堀見内店(秋田県)



宇都宮昭和三丁目店(栃木県)



江東東雲店(東京都)

安心とおもてなしのトイレづくり — 横須賀市の取り組み



神奈川県横須賀市では、トイレの日に合わせて、様々な取り組みを続けています。3年目となる今年には「トイレについて学び、大切にしよう」というテーマのもと、市立小・中学校での授業や、図書館・博物館での展示、公園や市内一部の公衆トイレのデザインラッピングなど、さまざまな企画を展開しています。

これらは、市民が安心して暮らせる環境づくりであると同時に、観光客への「おもてなし」にもつながっています。さらに、教育・文化・観光など複数の部署が連携して進める横断的なプロジェクトとして、市全体でトイレの価値を見直す機会となっています。

夏休みに募集した小学生の「トイレの標語」最優秀作品はステッカーになり、市内の公衆トイレ等に掲示されます。



市内の千代ヶ崎砲台跡では、ツアーガイドによるバイオトイレ見学ツアーも開催されました。

トイレ行列解消に期待がかかる新技術

トイレをすぐに使えるアプリができました



トイレ予約システム

▲スマートフォンでトイレの空状況をリアルタイムで確認し、予約することができるRest Pass株式会社のトイレDXプラットフォーム「RestPass」。AIとIoT技術で「待たないトイレ」の実現に期待がかかります。

株式会社バカンの「Air Knock」は、トイレの混雑時や長時間利用時に個室のモニターへ滞在時間と混雑状況を表示し、利用者の配慮を促して長時間利用を抑制します。



空き状況可視化システム



男女仕切り移動

▲コンサートやイベント会場などで男女比に合わせて男女のトイレの間仕切りを移動することができる小松ウオール株式会社のスライディングウォール。男女の個室の数を変えることができます。

まとめ

女性トイレの行列問題は、単なる日常の不便ではなく、社会の変化や制度の遅れを映し出す課題です。百瀬さんの調査が示した「数字で見える不公平」は、国の政策を動かし、現場の議論を呼び起こしました。すぐに解決するのは難しい現実もありますが、制度の見直しと技術の導入、そして利用者の意識が重なり合えば、未来は確実に変わっていきます。

「10年後には女性だけが待たされる状況をなくしたい」—— この言葉を実現するために、社会全体で取り組みを進めていくことが求められています。



株式会社サンコーが和歌山県と防災協定を締結

アメニティネットワーク加盟店でもある株式会社サンコーは、2025年10月31日、和歌山県と「災害時の物資の調達等に関する協定」を締結しました。近年頻発する地震や豪雨などの自然災害に備え、災害時に必要となる生活必需品を迅速に供給できる体制を整えることが目的です。

協定に基づき、サンコーは断水時にも利用できる携帯トイレを平時から60万回分備蓄。災害発生時には速やかに供給できるよう準備を進めています。また、和歌山県に携帯トイレ3,000回分を寄贈し、県民への防災意識向上にも貢献しました。サンコーはこれまで防災用トイレや備蓄関連商品を開発・提供し、自治体や教育機関と連携した啓発活動を行ってきました。今回の協定は、物資の確保という「モノの備え」だけでなく、安心して暮らせる社会を支える「ココロの備え」にもつながる取り組みです。

